

OLIS-プルデンシャル・ジブラルタ生命保険
寄附講座



チャールズ・アイブス Charles Ives

保険ビジネスマンという側面からの理解

米山高生
2015年1月17日

講演の概要

1. Ivesが生まれ育った時代の北部アメリカ
 1. 南北戦争の光と影
 2. 第二次産業革命と生命保険市場の近代化
 3. 産業主義と個人主義の矛盾
2. Ives はどんな仕事をしていたのか？
 1. アイブスと生命保険の関係
 2. アメリカ生命保険の歴史と特徴
 3. 生保における流通革新とIves
 4. 作曲家Ivesービジネスマンの側面からの理解
3. Ives を素材にダブルメジャーについて考える
 1. 職業選択に関する類型
 2. 「ダブルメジャー」という観点からの類型
4. 結び 非決定のままではいけない大学生

1. Ivesが生まれ育った時代の北部アメリカ

1.1 南北戦争がもたらした光と影

1861-1865 American Civil War

世界初の一般人を巻き込んだ総力戦

156万人(北軍)+90万人(南軍)=約246万人の兵士中殉職者は50万人以上 5人に一人以上の死亡者！

北軍の勝利の結果

光=工業力を中心とする近代国家となる

影=近代戦争の始まり=不安の時代の始まり

奴隷解放は人道的措置と理解されやすいが、北部工業で必要な労働は奴隷動労ではなく、質の高い労働力であった。

奴隷売買が禁止されたが、黒人差別は根強く残った。

工業化・独占へ批判 ⇒ 独立自営の個人主義が強化される。超越主義思想が生まれたり、アーミッシュが存続する背景。

1. Ivesが生まれ育った時代の北部アメリカ

1.1 南北戦争がもたらした光と影

Charles Ives の誕生と生い立ち

父 George Ives はグラント将軍の下で北軍の最年少の軍楽隊長

アメリカ北部の思想と父の独特な音楽感を叩きこまれた。

「父は概して人間というものは、主によって与えられた才能を十分に使い切っていないと考えていた。・・・父は、私たちに変ホ長調で歌わせながら伴奏をハ長調で行った。・・・そして私たちに終わりまで頑張って歌わせ、かなり苦しくなるまでやめようとしなかった。」『回想』

12歳ごろには父の楽隊でドラムをたたく。また作曲を開始。

14歳には、コネチカット州で最も若い有給のオルガニスト。

ホプキンス・グラマースクールを経て、1894年にイエール大学に進学し、音楽を専攻。同年の11月に父を失う。

1. Ivesが生まれ育った時代の北部アメリカ

1.2 第二次産業革命と生命保険市場の近代化

1870-1900 第二次産業革命 (A.D.Chandler)

国内市場の拡大
(鉄道・電信網)



関連する技術・製法
の連鎖的な革新

- ① モノの大量で迅速、かつ一定の流れ(通量 throughput)が生まれる条件が整備。
- ② 大量生産による規模の利益の実現 ロックフェラーの灯油産業、カーネギーの鉄鋼業
- ③ 生産(規模の経済)、経営(ミドル・マネジメント)、流通(チャネル開発)という三つの方面に「投資」した企業が、その産業の一番手企業(first mover)となる。

1. Ivesが生まれ育った時代の北部アメリカ

1.2 第二次産業革命と生命保険市場の近代化

アメリカ経済の特徴

- ① アダム・スミスの神の「見えざる手」から、階層的組織の「見える手」へ移行。
- ② 独立戦争以来の自主独立の気風 = 他国と比べてきわめて厳格な独禁法の存在
- ③ 奴隷労働よりも質の高い労働力が必要 = 移民労働が代替
- ④ アメリカ的生産方法 互換性部品の発想 = ゲージシステム、単能工作機械 流れ生産 = フォーディズムへの展開

1. Ivesが生まれ育った時代の北部アメリカ

1.2 第二次産業革命と生命保険市場の近代化 アメリカ経済の成長

表 9 アメリカ、イギリス、ドイツにおける人口と1人当り国内総生産 (GDP)の推移, 1870-1979年 (1970年アメリカの価格基準)

国名	1870年	1913年	1950年	1979年
アメリカ				
人口 (1000人)	39,305	97,227	152,271	220,584
GDP (100万ドル)	30,497	176,278	487,938	1,335,678
1人当りGDP (ドル)	764	1,813	3,204	6,055
イギリス				
人口 (1000人)	31,257	45,649	50,363	55,952
GDP (100万ドル)	30,365	68,082	105,471	222,749
1人当りGDP (ドル)	972	1,491	2,097	3,981
ドイツ ^a				
人口 (1000人)	39,231	66,978	49,983	61,359
GDP (100万ドル)	20,998	71,838	68,688	303,5080
1人当りGDP (ドル)	535	1,073	1,374	4,946

出所: Angus Maddison, *Phases of Capitalist Development* (New York, 1982), tables 1.4, A3, B2, B3, B4より作成。

注: a 1950年および1979年の数字は西ドイツのもの。

1. Ivesが生まれ育った時代の北部アメリカ

1.2 第二次産業革命と生命保険市場の近代化

1900-1930 Scale and Scope

独占企業の解体、多角化、海外進出の時代

- ① 自動車を含む耐久消費財の普及 現代の生活の原型
- ② 独占企業批判によりロックフェラー、デュポン、アメリカンタバコなどの企業が解体
- ③ 解体企業は消滅せず、規模と範囲の経済性を追求するために「投資」して復活
- ④ 多角化と海外進出は、企業の組織能力を高めるために重要

1. Ivesが生まれ育った時代の北部アメリカ

生命保険業の成長については後述するが、1900年代初めからミューチュアルを含むアメリカの大手生保が海外進出を行っている。



史料; 明治36年のニューヨーク生命の日本における営業用パンフレットの表紙。本社の威容が同社の資産力を象徴するため、生保会社は契約者の信頼を得るために、巨額な不動産投資を行っていた。

1. Ivesが生まれ育った時代の北部アメリカ

1.3 産業主義と個人主義の矛盾

- ① 独立自営の精神 独占企業に対する批判的な風土が
厳しい反トラスト法の土壌となった。
 - 多数の原油業者を再編し、統合企業を作ることによって規模の経済性により利益を追求するロックフェラーの事業活動と独立自営を好んだ原油業者の間で社会的な軋轢を生む。
- ② 大企業に飲み込まれて、トラスト証券によって利益を享受することを良しとしない独立自営の開拓者精神の存続。
 - ロックフェラーに対抗する原油業者の企業のパイプライン戦略とその攻防

2. Ives はどんな仕事をしていたのか？

2.1 Ives と生命保険の関係

- 卒業に際して、父親のいとこの一人から、彼自身が医務審査士をしていたミューチュアル生命への入社を勧められる。
 - アクチュアリー一部に入社するが、生まれつきアクチュアリーには向いていなことを悟り、1899年はじめに代理店に入社。
 - 1906年にMyrickと組んで、ワシントン生命の代理店を設立。
 - ワシントン生命がNYで営業しないピッツバーグ生命に買収されたため、あらたにミューチュアル生命の代理店である Ives & Myrick を設立。
- 保険募集方法の改善のための手引書「お勧めする契約額一見込み客をどのようにとらえるか」(The Amount to Carry – Measuring the Prospect), 1912.を作成。この手引書は、当時、アメリカの保険外務員のバイブルとみなされていた。
 - 総代理店Ives & Myrick の躍進については山内報告を参照。

2. Ives はどんな仕事をしていたのか？

2.2 アメリカ生命保険業の歴史と特徴

1840年代 設立された生命保険会社29社

1840-50 37社の生保が新設。うち12社は20世紀まで存続するが、この中には、New York Life, Mutual Life of New York, Mutual Benefit of New Jersey, New England Mutual, Connecticut Mutual, Penn Mutual などの有力が生計保険会社が含まれている。相互会社形態を採用。

1859年にEquitable Life が株式会社として参入。

1865-1870 南北戦争後に資本が投資先を探して、生命保険に流入し、107社設立

1871-1877 激しい競争と不況の到来によって75社の生保が倒産。生命保険の保有契約が激減。

1880年代 業界協調・生保市場安定の兆し ⇒ アクチュアリー協会(1889)、保険医協会(1889)、外務員協会(1890)。また世紀の転換期にはハーバード大学やウィスコンシン大学において保険の講座が開設。

2. Ives はどんな仕事をしていたのか？

2.2 アメリカ生命保険業の歴史と特徴

世紀転換期におけるアメリカ生保市場の特徴

1. セミトンチン型生保: 19世紀後半において都市の専門職業者、実業家そして増大するホワイトカラー層の間で、保険カバーに投資収益の可能性を組み込んだ据置配当保険が爆発的に売れるようになった。
2. ガバナンス問題: 相互会社の経営が放漫で契約者利益を侵害しているのではないかという世論(反トラスト批判と共通の感情を基盤とする)
3. チャンネルの変革: 広告手段の増大とならんで、営業外務員をつかった直接販売伸長
 - 包装付衛生商品や食品のマーケティングに共通した傾向
4. 産業構造: 1905年 1882年の55社から126社に増加。しかし、スタンダードやUSスティーラーのような業界支配者は出現せず。最大クラス会社
 - 普通生保三社 Mutual Life, Equitable Life, NYL
 - Big Three 1904 資産総額10億ドル、加入者数は200万人
 - 簡易保険二社 Prudential, Metropolitan
 - ⇒ 独占禁止法による解体はなかったが、ガバナンス問題でアームストロング調査が実施

2. Ives はどんな仕事をしていたのか？

2.3 生保における流通革新と Ives

- Ives は、総代理店制度という会社から支持されないチャネルを担いながら成功したビジネスマン
- NYという比較的高給の俸給生活者が住む都市市場において、単に死亡保障のみならず、個人の資産運用・税制を踏まえた合理的な家計ニーズ額の計算を行って、いわゆるニードセールスを展開。また高い資質のセールスマンをリクルートし同じ販売方法を浸透。
- 現代日本の言葉でいえば、家計に対するファイナンシャルプランナーの役割を果たしながら、保険を販売した。

TABLE 24
SALES OF SEVEN LARGE NEW YORK CITY GENERAL AGENCIES, 1917-1923

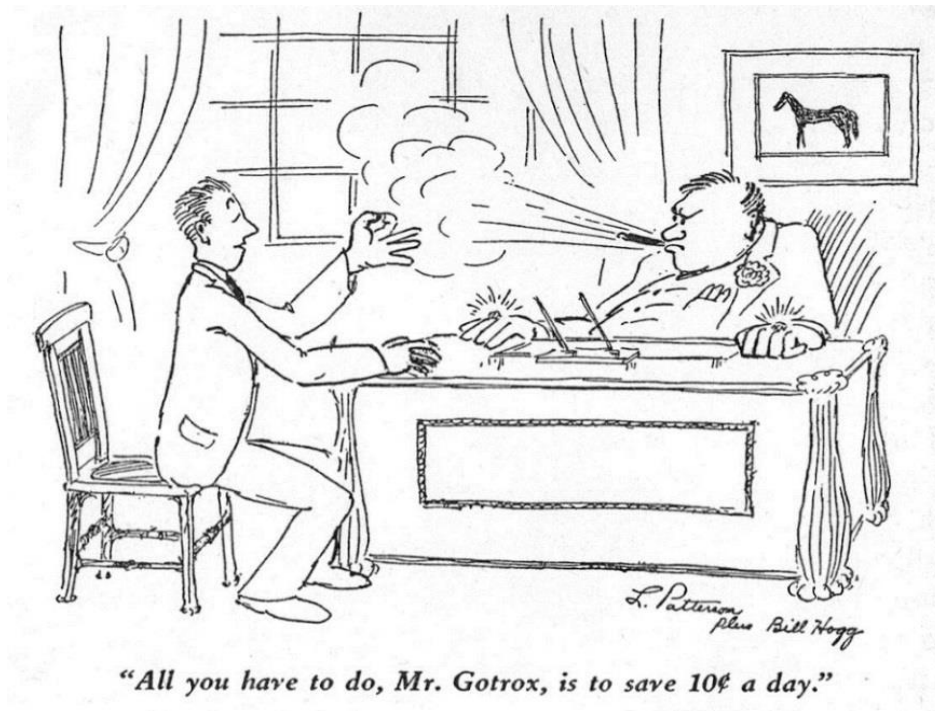
Agency	Annual Production (In millions)				
	1917	1918	1919	1922	1923
Ives & Myrick (Mutual Life)	\$15	\$15	\$23	\$25	\$33
J. I. D. Bristol (Northwestern Mutual)	13	..	23	20	31
L. A. Cerf (Mutual Benefit)	13	13	21	29	27
Mowry & Patterson (Aetna)	11	20	..
Charles B. Knight (Union Central) ..	10	10	16	25	35
Charles Kederick (New York Life)	8	..	17	17	..
Robert J. Mix (Prudential)	7

Source: *Eastern Underwriter*, Feb. 1, 1918, p. 5; Jan. 3, 1919, p. 1; Jan. 2, 1920, p. 1; Dec. 22, 1922, p. 7; Dec. 28, 1923, p. 1.

2. Ives はどんな仕事をしていたのか？

2.3 生保における流通革新と Ives

総代理店がコストが高いという理由で廃止されるという難しい事業環境の中で、独立自営の代理店主としてビジネスを行った。ミュチュアルとの代理店関係はありながら、基本的には手数料ビジネスが収益。その意味では、独立自営の東部人としての誇りを維持。(超越主義などの思想的背景と矛盾せず。)



2. Ives はどんな仕事をしていたのか？

2.3 作曲家Ivesービジネスマンの側面からの理解

「元Grant将軍御用達軍楽隊楽長の息子。イェール大学...に音楽を学ぶも卒業後は、保険業にもいそしみ、後には保険会社社主。(中略)現代アメリカの独立宣言者。20世紀最大、まっとうにして、最もはずれた作曲家」(三宅榛名『アイブスを聴いてごらんよ』筑摩書房、1977年。下線赤字は引用者による)

音楽史の中でのIvesの存在意義

同年のシェーンベルクの音楽との比較により明らかになる。

アドルノの評「シェーンベルクの新しい技法は、搾取に基づく資本主義的ビジネスによって評価された伝統的調性感の反作用である」

シェーンベルクの音楽を These とすると、アイブスの音楽は Anti-These?

弁証法的？に比較してみよう。

2. Ives はどんな仕事をしていたのか？

2.3 作曲家Ivesービジネスマンの側面からの理解

	シェーンベルク	アイブス
音楽技法の特徴	無調・12音技法	多調性・無調性・複合リズム・トーン・クラスター、12音配列、metrical modulation, 微分音※
調性音楽	論理的な批判	超論理的な批判
生活・人生	作曲家・教育者	実業家・作曲家
理解・普及	多くの弟子	知られざる作曲家
代表作	グレの歌(1900/1911)後期ロマン派の集大成 月につかれたピエロ(1912)無調性 ピアノ組曲(1921/23) 全曲12音技法で作曲 ピアノ協奏曲(1942) 弦楽四重奏曲第1番(1905)-第4番(1936)	Vn Sonata No1-No4(1902/1912) 以上の音楽技法がすべて盛り込まれている。 交響曲第3番(1901/04)マーラーが浄書屋でスコアを発見し、ヨーロッパに持ち帰ったといわれる。 交響曲第4番(1910/16)
作曲活動	若いころの傑作「浄夜」(1899)から最晩年まで作曲活動が継続。アメリカ移住後は調性を用いた作品も書いた。1951年に喘息発作のためにロスアンゼルスで亡くなるまで創作活動。	ビジネスを立ち上げ成功への軌道に乗る時期に名作が多く残されており、引退する以前の1926年に創作力が枯渇。

3. Ives を素材にダブルメジャーについて考える

3.1 職業選択に関する類型

1. 自律的な選択と事例

- デカルトの職業選択

「人間の職業、純粹に人間としてなせる職業のうちに、たしかに優れた重要なものが何か一つでもあるとすれば、それこそわたくしが選んだ仕事だと、信じたいほどである。」デカルト『方法序説』岩波文庫

2. 他律的な選択と事例

- 城山三郎(杉浦英一)の職業選択

- 阿部謹也の職業選択

3. Ives を素材にダブルメジャーについて考える

3.2 「ダブルメジャー」という観点からの類型

1. バランス型

- 仕事と専門が両立している(「二足の草鞋」と呼ばれるタイプ 森鷗外研究者で有名な吉野俊彦(元日銀理事))
- このタイプは意外に多い。Cf. 日経「交遊抄」を参考

2. 合一型

- アイブスは音楽では食えないからビジネスを選んだとされていますが、果たしてそうなのでしょうか？
- 作曲という目的を達成するために、嫌な仕事をしていたようには思えません。
- アイブスにとっては、作曲も仕事も life だった！

3. Ives を素材にダブルメジャーについて考える

3.2 「ダブルメジャー」という観点からの類型

交遊抄

真夜中の電話 ばかりで人生経験もな
話だった。昭 和49年(1974年)夏のことだ。電話遅くないのでは」。あえ
和49年(1974年)夏のことだ。電話遅くないのでは」。あえ
の相手は東京大学ポト 部で一緒に汗を流した大 大口君は結局、国土交
口清一君。「小説家にな 通審議官まで務めた。僕
ろつと思っんだ」。思い の助言は間違っていたのだから、今度
がけない相談だっ た。 はメールが届い
僕らは4年生で た。2年前のこと
大口君は既に運輸 だ。「これまで書
省(現国土交通省) の内定をもらって きたため短編を本
いた。官庁回りを にまとめることに
するなかで思っ と したんだ」。装丁
ころがあったよう をどうするか迷っ
だ。ずいぶん切迫 ているらしい。書
した声だった。2 き続けていたなん
く3時間は話し合っ びっくりするような話
と思う。 て知らなかった。

僕の答えは「バカ言っ 題が出た時でも「酒はゆ
んじゃない」。確かに大 つくり」が僕らの流儀だ。
口君はサスペンダーの似 白金のすし屋でのそんな
合っロマンチスト。僕な 時間がたまらなく心地よ
んかよりずっと女性心理 い。(すぎもと・まこと
のわかるこまやかな男 ーレシッポホールデイン
だ。だが経済学部を出た グス社長)

真夜中の電話

真 本 杉

4. 結び

©1965 Folkways Records & Service Corp., 43 W. 61st St., N.Y.C., USA

CHARLES IVES THE SONATAS FOR VIOLIN AND PIANO

Performed by Paul Zukofsky, violin,
and Gilbert Kalish, piano



CHARLES IVES about 1910

アイブスの人生(生活)をたたき台として、皆さんの人生計画に役立つヒントを考えてみましょう。

FIRST SONATA (1903-1908)

ANDANTE - Allegro Vivace
LARGO CANTABILE
ALLEGRO

SECOND SONATA (1903-1910)

AUTUMN - Adagio Maestoso - Allegro Moderato
IN THE BARN - Presto - Allegro Moderato
THE REVIVAL - Largo - Allegretto

THIRD SONATA (1902-1914)

ADAGIO, Verse 1 - ANDANTE, Verse 2 - ALLEGRETTO,
Verse 3 - ADAGIO, last verse
ALLEGRO
ADAGIO CANTABILE - Andante Con Spirito

FOURTH SONATA - "Children's Day at the Camp Meeting"
(1905-1914)

ALLEGRO
LARGO - ALLEGRO (con slugarocko)

tions from the hymns and dance music of the period tie the four works into a rich and complex musical strand. Each of the sonatas is strongly individual, and stands very firmly on its own feet, but each of them also takes on a greater depth and a richer coloration from its relationship with the other three. Ives wrote and revised them at about the same time, even using the same melodic material from an earlier work as the source for movements in both the Second and the Fourth; so it is entirely possible that there was a larger artistic design running through their composition, even though it may have been only an unconscious one. It has perhaps been this "sensed" larger scheme which has made the sonatas more accessible, in a sense easier to understand in their general outlines, than many of his other compositions. The Fourth, in particular, offers fewer difficulties to the listener than almost any other of his works, and it illustrates many of the philosophic concepts that were at the heart of his musical thought.

- ◆ 人生の選択に悩む学生のために何らかの考えるヒントを提供したい
- ◆ チャールズ・アイブスは「保険」という当寄付講座のタイトルと整合性のある恰好の対象だと思われる